



坂本龍馬家紋
達磨精根

2 長州屋敷址



長州藩邸は幕末には尊王攘夷運動の拠点であったが、元治元年(1864)禁門の姿で焼失をした。時を経て、現在、この敷地内に京都ホテルオークラは建っている。

1 桂小五郎像



京都ホテルオークラの河原町通りに、その雄姿を見せる桂小五郎(後の木暮孝允)は維新三傑の一人。また、芸妓・幾松との恋物語でも広く知られている。

京都ホテルオークラ



4 佐久間象山・大村益次郎遭難の碑



佐久間象山は元治元年(1864)に尊王攘夷派の凶刃に倒れ、また陸軍の祖 大村益次郎は明治2年(1869)に同じく刺客に襲われている。
※三条小橋北西向には案内の碑が建つ

3 幾松・桂小五郎居り



幾松は、桂小五郎が命の危険に晒されていたにもかかわらず特別な時代、潜伏中の彼を必死にきさえつけ、のちに妻となる女性である。現在は料理旅館として営業している。

6 武市瑞山寓居之跡



土佐藩士。同郷の龍馬(諱兼である)や中岡慎太郎同士を築いて土佐勤皇党を結成した。文武両道に秀で、後の戯曲「月形半平太」のモデルにもなった。

8 池田屋騒動之址



元治元年(1864)、近藤勇・沖田総司ら新選組が、池田屋にて密謀中の志士を襲撃した。龍馬と親交の深かった望月亀弥太も命を落とす。

5 佐久間象山寓居之址



公武合体や開国論を説いた幕末における洋学の第一人者。吉田松陰をはじめ、龍馬や勝海舟もその門下に一時名を連ねることがあった。

14 金蔵寺跡



元治元年(1864)8月、龍馬とお龍は青蓮院塔頭金蔵寺の本堂にて「内宮」を挙げている。その時の様子はお龍の回想録に詳しい。

7 吉村寅太郎寓居之址



土佐勤皇党に参加。後に土誅組を組織して奈良で挙兵するも、文久3年(1863)9月吉野にて戦死。石碑の傍には、愛嬌のある傷染物の狸が置かれている。

9 酢屋



「酢屋」は享保6年(1721)よりつづく材木商。龍馬はこの二階に海援隊京都本部を置き定宿とした。現在も当時の面影を残し、一階は木工芸店「酢屋」として営業、二階は「ギャラリー・龍馬」として資料が展示されている。

10 土佐藩邸跡



土佐藩邸は高瀬川の西側から河原町通に至る間にあった。最初の版屋をゆるされた龍馬は、ここで「御叱り」として7日間謹慎をしていた。

11 岬神社(土佐稲荷)



貞和4年(1348)、鴨川西側の中州の岬に祀られたのが起こり、江戸時代初期に土佐藩邸内に遷座された。境内に小さな龍馬像が建てられている。

12 坂本龍馬・中岡慎太郎遭難の地(近江屋跡)



慶応3年(1867)11月15日の夜半、土佐藩商用運の醤油舟近江屋に倒れた。坂本龍馬と中岡慎太郎は凶刃に倒れた。犯人については諸説あるが詳細は不明。

13 中岡慎太郎寓居之跡



土佐藩出身の志士。龍馬の盟友。龍長同輩、藤土同盟の結成に尽力した。ここは脱藩後の中間が下宿していた土佐藩商用運書林苑居跡。

京の街角に
刻まれた
龍馬の時代をたどる
小さな時間旅行

